

# 飲水思源

町長

松岡市郎

俺は記者じゃなく話者、私は読者!?

「東川町は新聞などに良く出ますね」ということを町内外の人々から聞く。

先日、お世話になってる新聞記者で東川担当、以前担当であった方などと懇談する機会があった。新聞記者の方は、総じてお酒が強いし行動力がある。その時酒の肴(さかな)になったのが「俺は記者じゃなく話者だ」という話である。この話者が若手記者の研修に登場したようである。その話者とは…。

私が役場に入ったところの話であるから、昭和40年代後半のころである。役場へカメラを肩から下げ、ノートを片手に颯爽(さつそう)と入ってくる人々がいた。それは当時、北海道にあった新聞社の記者たち。極めて動きが早く、恐れるものがまったくなく、格好が良かった。「ペン」は剣よりも強し」「記者は強い」と同僚と言いつつたものだ。

5年ほど前、政治部記者を経て偉くなっていった当時の記者に会った。お酒も強く、良くしゃべる。それも聴く者の心を引き付ける。あちらこちらで講演しており、女性の人気も高く、〇〇市長候補にも名前が挙がったようである。ある酒席で「〇〇市長に名前が上がっていると聞きましたか…」と言ったら、「俺を安く

見るな」と叱られてしまった。

本町で中曽根元総理大臣写真展を行った時に、政治記者人脈で中曽根氏を本町へ招致できないかとお願ひに行ったら、本社役員で政治記者であった方を紹介してくれた。実に手早く動き尽力してくれたが、残念ながら高年齢で実現には至らなかった。また別件でも力を貸してほしとお願ひに行ったら、その場で次から次へと携帯電話し、その行動力にあ然とした。

その記者の口癖は「俺は記事を書くのは不得意、飲むのと話すのは得意だ。だから俺は話者だ」と言っていたのを思い出した。当時本社役員だった方は、現在社長。後任役員がその話者である。

今は記者から転身し、私が親しくご指導いただいている方も、この「話者」とは旭川勤務時代の仲間だそうで、この転身も行動力と話力はすごく、進みだしたら止まらない。怖いもの知らず、どんどんと進んでいく。記者には話力と行動力は付きものかと感じている。若き新聞記者たち、いずれは話力が身につく話者になるのか。私は読者であるが、話者の行動力と話力は学びたいものだ。

## 文化交流館 新刊図書・ビデオ案内

★本、DVDの蔵書リクエストをお受けしています

貸し出し期間は、図書は1人5冊まで14日間、ビデオは1人2本まで4日間です。返却期間を守りましょう(夜間返却窓口もご利用ください)。



食堂かたつむり  
(映画、DVD)  
アミューズソフト

失恋のショックで声を失った倫子は、子どものころからなじめなかった自由奔放な母が暮らす田舎へ戻り、小さな食堂を始める。お客さまは一日一組だけ。決まったメニューはなく、お客さまとの事前のやりとりからイメージを膨らませて作る倫子の料理は、食べた人の人生に小さな奇跡を起こしていく。(119分)



バムとケロのもりのこや(絵本)  
著/島田ゆか 刊/文溪堂

ぼかぼかとあたたかい木曜日、バムとケロは森の中で古い小屋を見つけました。誰も住んでいないこの小屋のまっくろな窓や泥だらけの床を拭き、最後にペンキを塗ってふたりの素敵な秘密の小屋に。ところが次の日小屋を見に行くと、きちんと閉めたはずの扉が少し開いていて…。シリーズ12年ぶりの新作。



月と蟹  
(一般書)  
著/道尾秀介 刊/文藝春秋

小学5年生の慎一は、借家で母と祖父との3人暮らし。転校以来、クラスメイトから嫌がらせを受けていたが、同じ転校生の春也と仲良くなる。ある日、2人はヤドカリを神に見立てて願ひごとをする遊びを思いつく。すると願ひ通りの出来事が現実になり始めて…。第144回直木賞受賞作品。